

株主・投資家の皆様へ

yokowo

第83期 株主通信

2020.4.1～2021.3.31

株式会社 **ヨコオ**

(証券コード：6800)

株主の皆様へ

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社をとりまく経営環境は、新型コロナウイルス感染症の拡大が世界中の人々の行動・活動を極端に制限し、経済活動を委縮させたことにより、まさに先行き不透明かつ不確実な時代に突入しております。

しかし、このような環境下においても、当社主要市場である自動車／半導体検査／携帯通信端末市場においては、CASE^(※1)／MaaS^(※2)／5G／IoT普及／AI(人工知能)活用拡大など先進的なアプリケーションが目白押しな状況には変わりありません。

このような状況の中、第83期(2021年3月期)の当社グループの売上高は、599億7千6百万円(前期比△1.0%)と、わずかに減収となりました。

一方利益面では、営業利益が51億7千9百万円(前期比+5.3%)、経常利益は円安による為替差益を計上したことなどにより53億2千万円(前期比+16.1%)、親会社株主に帰

属する当期純利益についても経常増益などにより38億1千8百万円(前期比+11.0%)と、いずれも前期に引き続き過去最高を更新いたしました。

当期の期末配当につきましては、過去最高となった利益の株主様への還元、次期以降の業績見通し、資金需要及び財務安定性の確保を総合的に勘案し、直近の配当予想から4円増額して1株当たり20円とさせていただきます。なお、中間配当金として16円をお支払いしておりますので、当期の年間配当金は1株当たり36円(連結配当性向19.5%)となりました。

続く第84期(2022年3月期)も、引き続き事業構造の重層化と進化経営の具現化を加速し、不透明な事業環境下でも安定的に利益を生み出し、先進性・収益性・安定性を高い水準で実現する体制の構築に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具



代表取締役 執行役員社長

徳間 孝之

※1 CASE: 自動車の新しいトレンドであるConnectivity(接続性)/Autonomous(自動運転)/Shared(共有)/Electric(電動化)

※2 MaaS: Mobility as a Service(移動のサービス化)

企業理念 VISION

ヨコオは、企業ビジョンとして「社会に貢献し顧客の信頼に応えるため技術を蓄え、市場の創造に全員で挑戦する進化永続企業」を掲げています。

yokowo

企業使命 MISSION

ヨコオは、「サステナブル・ソサエティの実現に向けて、事業構造革新を進める先進企業のニーズに応え、当社コア技術に基づく高品質製品の提供により社会の進化に貢献する」ことを企業使命と考えています。

ヨコオの事業領域

当社グループの事業領域は、大きく分けて、車載通信機器／回路検査用コネクタ／無線通信機器の3つのセグメントがあります。

精密金属パイプ加工からスタートした当社は、アンテナ技術・マイクロウェーブ技術・表面改質材料技術など様々な技術を導入し磨き上げ、アンテナ／コネクタ／先端デバイス製品と事業領域を次々と拡大して、革新的な製品を生み出してまいりました。

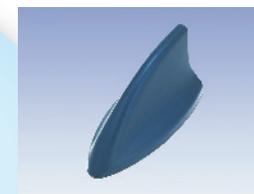
これからも、次世代のエレクトロニクスをいち早くとらえ、最先端の製品を世界に向けて提案・提供し続けることにより、さらなる成長と企業価値向上に努めてまいります。

車載通信機器 売上高 **372億9千2百万円**
(前期比△5.0%)



車載アンテナ

車載アンテナの基本ニーズである小型化・複合化・低背化・スマート化に応えるため、次世代の車載通信を支えるアンテナシステムを開発・提案し続けることにより、安全・快適なモビリティサービスの実現に貢献します。



シャークフィンアンテナ



インパネ内蔵アンテナ

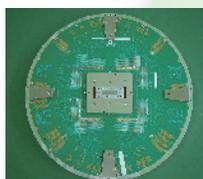
yokowo

回路検査用コネクタ 売上高 **132億4千2百万円**
(前期比+3.2%)



半導体検査用
治具

電子部品の回路検査の微細・高速対応ニーズに応えるべく、半導体製造プロセスの前工程から後工程まですべての領域に対し、微細な半導体検査用治具を開発・提供しています。



プローブカード



ICソケット

無線通信機器 売上高 **94億4千1百万円**
(前期比+11.1%)



電子機器用コネクタ
(ファインコネクタ)

各種電子機器の小型化・省スペース化ニーズに応える微細「スプリングピンコネクタ」をグローバルに開発・提供しています。



各種スプリングピンコネクタ



医療用機器
(メディカル・デバイス)

低侵襲治療の実現に貢献するOEMガイドワイヤ、医療用カテーテル微細精密部品の設計から開発・製造まで提供しています。



ガイドワイヤ・カテーテルシャフト用コイル

社長インタビュー

第84期の見通し、新中期経営計画の進捗や中長期的な展望について、徳間社長にお話を伺いました。

—新中期経営計画2年目の第84期も、売上高・営業利益ともに過去最高を更新するという業績予想ですが、どのような展開を想定されているのでしょうか。

今期第84期は、上期から下期へ、売上・利益ともに伸長していくものと想定しており、通期では売上650億円・営業利益58億円と、過去最高を更新する見通しです。セグメント別では、車載通信機器／回路検査用コネクタの両セグメントは増収増益、無線通信機器セグメントは前期(第83期)比で若干の増収を見込んでいます。

車載通信機器(VCCS)事業は、前期に収益体制再建で一定の成果を上げましたが、2021年年初以降、世界的な半導体不足から完成車メーカーが減産を余儀なくされていることから、今上期の売上高は前年下期比で減収、今下期から上向くものと見込んでいます。利益面では、昨年12月以降の海上運賃の高騰の他、海上輸送の遅延をカバーするための航空便多用で、物流費が重石となってしまっています。電

子部品・樹脂材等の価格高騰もあり、今上期中は厳しい展開を見込んでいますが、これらのコストアップ要因は徐々に緩和・軽減し、今下期から本来の力を発揮していけるとみています。

回路検査用コネクタ(CTC)事業は、いわゆる巣ごもり需要やテレワーク需要、5Gの本格的普及などから、パソコン／スマートフォン／サーバなど幅広い用途向けで半導体の検査需要が拡大しており、これを背景に増収増益を見込んでいますが、期中の推移としては、一部顧客からの受注の後ろ倒しなどにより、第2四半期以降本格的に伸長していくと想定しています。また、今期は、ターンキー・ビジネス^(※1)やYPX^(※2)を中心とする、前工程検査用プローブカード事業の拡大に特に注力しつつ、来期以降の飛躍的拡大に向けた土台作りを行っていきます。

無線通信機器セグメントのファインコネクタ(FC)事業は、外出制限等に伴うネット通販等の利用拡大から倉庫業・配送業などでポータブル情報端末の使用が増えており、そういった端末向けのスプリングコネクタの販売が順調に伸びています。その他、ウェアラブル機器、デジタルカメラ、産業用機器など、スマートフォンほど



の数量規模は無いですが、アウトドアや厳しい作業環境などで求められる高機能ニーズにタイムリーかつ的確に、幅広くお応えすることで、年度を通じて当事業の安定的な成長を見込んでいます。

無線通信機器セグメントに含めているメディカル・デバイス(MD)事業は、新型コロナウイルスの影響でカテーテル手術の実施数が激減し、前下期以降売上高が停滞していますが、ワクチン接種の拡大とともに医療現場が正常化に向かい、今下期以降、当事業も成長軌道に戻していけるものとみています。

細かいアップダウンはいろいろ想定されますが、成長軌道にあることに変わりはなく、新中期経営計画で設定している2023年3月期(第85期)の目標も十分達成可能であると考えています。

※1 プローブカードを構成する部品を自社で製造あるいは外部から調達して組み立て、性能評価等を行ったうえで顧客に納品するとともに、当社エンジニアが技術的相談やアフターサービスも行う、ソリューションビジネス。

※2 当社のプローブカードの商品名。スイッチ／フィルタ／パワーアンプなど高周波電子部品の製造工程(前工程)で使われるプローブカードで、ミリ波対応タイプの販売が伸長中。

＜第85期業績目標＞

売上高 720億円 (当期予想比+10.8%)
 営業利益 72億円 (当期予想比+24.1%)
 (売上高営業利益率10%)

—そうしますと、今期も、新型コロナウイルスによる影響への対応が、経営上の一番の課題である、ということでしょうか。

経営上重要な課題は大きく3つあると考えています。まず1点目は、新型コロナウイルス感染拡大防止とその影響への対応です。新型コロナウイルスの影響は、様々な表れ方がありますが、例えば、直接に即時に受けるネガティブな影響であれば、当社の生産拠点で新型コロナウイルス感染者が発生し、生産活動に支障を来す場合が考えられます。間接に後から受けるポジティブな影響としては、先程申し上げた、巣ごもり／テレワーク需要拡大からパソコン／サーバの販売伸長を通じて半導体需要が拡大する、といったものがあります。それらに対して当社は、引き続きネガティブな影響を防止あるいは最小限にとどめるとともに、ポジティブな影響の波及を素早く察知して最大限に取り込めるよう、常に感度を高く保ち、わずかな兆しをも見逃さないことが大事だと考えています。

2点目は、地政学リスクへの対応です。とりわけ米中対立は、長期化しているだけでなく、対立する論点・問題点の拡大や、米国からG7への広がりもあって、当社としても様々なケースを想定して対策・対応を検討していく必要があると考えています。

3点目は、高い長期目標の設定を要する意味で最も重要といえますが、気候変動への対応をはじめとするサステナビリティの取組みの加速です。ESG(環境・社会・ガバナンス)・SDGs(持続可能な開発目標)の世界的潮流が、ここ半年ほどの間に、特にカーボンニュートラルへの動きが急激に加速しています。当社としても、これまでの取組みをもう一度見直し、方針・ロードマップと具体的施策を再設定して、当社グループの総力を挙げて強力的に推進してまいります。また、それらを統合レポート及び当社ウェブサイト上で開示してまいります。

—最後に、株主の皆様メッセージをお願いします。

前期は、過去最高益の更新だけでなく、今後の当社のさらなる発展／経営・事業の進化に向けた施策として「新株予約権による増資」を実施

しました。新中期経営計画において、新領域・新ビジネスへの進出と、コア技術深化に向けた基礎研究の抜本強化を打ち出しましたが、増資により調達した資金をそれらの設備投資に投じることで、当社の既存ビジネス・既存技術の“限界”を突破し、新たな成長力を獲得してまいります。

当社は、グローバルなサステナビリティの実現に向けてその一端を担い、当社を取り巻く環境とステークホルダーの皆様との調和を大切にしながら、イノベーション施策による「進化経営」を続けてまいります。また、この行動がより安定的・永続的となるよう、さらなる「重層化経営」にも引き続き取り組んでまいります。

新型コロナウイルスのワクチン接種が世界各地で進んでおり、経済・生活も回復に向かうものと期待されています。いわゆるコロナ前とまったく同じ状態にはならないでしょうが、それでも、今よりもっと穏やかで、余裕の持てる状況に変わっていくのではと思っています。

株主の皆様におかれましては、引き続きご自身と大切な方々の健康に留意されながら、今後とも当社に変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

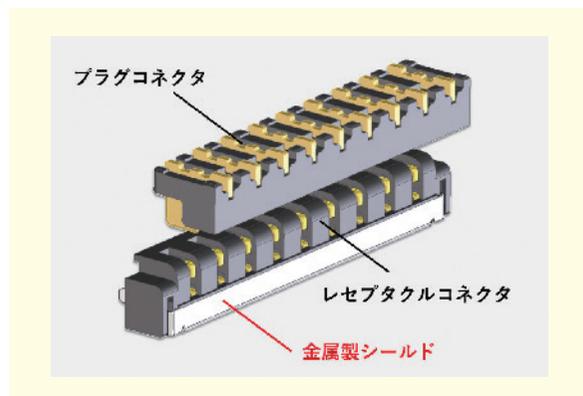
【ファインコネクタ事業】

ヨコオとして初めて、ツーピース電源コネクタに伝送機能を追加した『10Gbps伝送対応ツーピースコネクタ』を開発

当社は、主に情報端末機器などのバッテリー接続部に特化したツーピース電源コネクタに、伝送機能をヨコオとして初めて追加した「10Gbps伝送対応ツーピースコネクタ」を開発しました。

ヨコオ製ツーピース電源コネクタは、プラグコネクタとレセプタクルコネクタのツーピース構造で、それぞれを嵌合して使用するコネクタです。接点箇所が2点ある当社独自のフローティング構造により、嵌合時における接続位置のズレを、±0.5mm(スタンダードタイプ)まで吸収することができるため、耐振動性能や耐衝撃性能に優れ、ハードな現場で使用される情報端末機器などの、バッテリー接続に利用されています。

今回、ツーピース電源コネクタの高い接続信頼性そのままに、最適な信号特性を得られるように、レセプタクルコネクタの外側を金属製のシールドで囲い、インピーダンスを整合させることで、10Gbps(USB3.1相当)の高速伝送機能を実現しました。



▲10Gbps 伝送対応ツーピースコネクタ 外観図

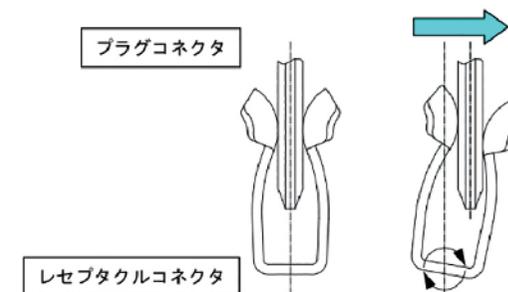
情報機器端末に搭載されるディスプレイやCPU、メモリなどは日々高精細化、高速度化しており、情報端末としての処理機能を格段に向上させています。

このような状況下、端末内部の基板間を接続するコネクタにおいても、高速伝送ながら、省スペースで高い接続信頼性を有する市場ニーズがあるものと考え、ツーピース電源コネクタに高速伝送機能を追加した「10Gbps伝送対応ツーピースコネクタ」を開発しました。

今後、物流倉庫や製造現場などのハードな現場で使用される情報端末機器の他、工場やプラント、建築現場などのフィールド用途向け堅牢ノートPCなど、高速伝送性能はそのままに、高い接続信頼性を求める製品に、「10Gbps伝送対応ツーピースコネクタ」が貢献できると考えています。

【フローティング構造説明】

当社独自のフローティング構造により、プラグコネクタの位置がずれても、しっかりと嵌合します。



右のQRコードからも
アクセスできます



<https://www.youtube.com/watch?v=i-QEoQqz02I>

ファインコネクタ事業の紹介動画を当社公式YouTubeチャンネルに公開しました。ぜひご覧いただき、チャンネル登録もお願いします!



▲キャプチャー画面

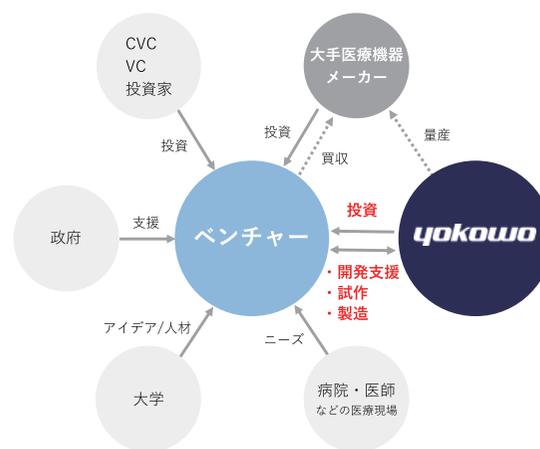
【メディカル・デバイス事業】 医療機器ベンチャーとの協業を本格化し、日本版、医療機器ベンチャー・エコシステムの確立に貢献

当社は、医療機器ベンチャーとの協業（開発支援、試作、製造）を本格化し、日本の医療機器ベンチャー・エコシステムの確立に貢献する取組みを推進しています。2025年までにメディカル・デバイス事業として50億円の売り上げを目指すことに加え、オンリーワンの製品製造を通じて革新医療、難病疾患の治療に貢献していきます。

現在、米国の大手医療機器メーカーでは自社内での医療機器開発はあまり行わず、有望な医療機器ベンチャーが革新的な医療機器や難病治療機器の開発を行い、大手企業がそれらベンチャーを取り込むことでイノベーションを加速させています。一方で、日本は米国と比較して医療機器ベンチャーの数が少なく、そのような事例も少ないのが実情です。

その要因として、医療機器ベンチャーのアイデアを実現する製造パートナーが少ないため、医療機器ベンチャー・エコシステムが十分に機能することができないという課題があります。

当社は、医療機器ベンチャーの開発支援から製品試作、さらには量産製造までを担う、製造パートナーとして、ベンチャーが持つアイデアとヨコオの持つ微細精密加工技術を中心とした医療機器分野での製造ノウハウを融合させ、医療機器ベンチャー・エコシステムの確立に貢献していきます。



▲ベンチャー・エコシステムの確立イメージ

医療機器メーカーとして当社は後発ですが、半導体検査機器や電子機器部品製造などで、長年にわたり、微細精密加工技術を磨き続けてきました。メディカル・デバイス事業は2006年に医療用部品製造から始まり、製品設計、アッセンブリー製造まで行えるまでに拡大しており、近年では異素材の金属をつなぎ合わせるヨコオ独自の技術「SmartWeld™」を開発するなど先端医療機器製造のノウハウを蓄積しています。

2019年には、日本初の急性脳梗塞治療用デバイスの製造パートナーとして、開発段階から支援を行うとともに製品化に貢献し、現在では量産製造までを手掛けています。これをきっかけに、株式会社Biomedical Solutionsの代表を務める正林和也氏が提言したベンチャー・エコシステム構想（2018年の内閣官房主催第6回次世代医療機器開発推進協議会で“国内医療機器開発における体制構想”として提言）に賛同するとともに、ベンチャーの革新的な製品アイデアを具現化する製造パートナーを担うことを決定し、2020年にはすでに4社と協業を開始しています。

当社はこれからも、長年培った微細精密加工技術と医療用機器の製造技術を生かし、事業の拡大だけでなく、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



ヨコオとして初めて、富岡市有3施設の ネーミングライツを、地元富岡市への 地域貢献を目的に実施

当社は、群馬県富岡市が保有する3施設(市民体育館、市陸上競技場、市民球場)のネーミングライツ(施設命名権)に応募し、パートナー企業に決定しました。この3施設は2021年4月よりそれぞれ以下の愛称が付けられることとなり、運営が始まっています。なお、ヨコオとしてネーミングライツを実施するのは初めてです。

【4月からの施設愛称】

- ・市民体育館……Yokowo富岡市民体育館
- ・市陸上競技場…Yokowo富岡市民陸上競技場
- ・市民球場……Yokowo富岡市民球場

2020年11月に、公共施設の良好な運営やサービスの質を向上させる目的で、富岡市が保有する3施設へのネーミングライツパートナーの公募が行われました。当社は、地域に根差した活動を通じて地域社会と共に発展していくことを目指しており、この富岡市の考えに賛同するとともに、地元富岡市への地域貢献をより強化していきたいとの思いから本件に応募しました。

その結果、2021年1月にネーミングライツパートナー企業に決定し、2月には契約を締結するとともに、富岡市役所で締結式が行われました。

契約期間は2021年(令和3年)2月1日から2024年(令和6年)3月31日までの3年間で、ネーミングライツ料は総額450万円です。

ヨコオは地域社会の一員として、昨年、新型コロナウイルス感染拡大により、厳しい状況にある医療現場を支援するために、本社のある東京都北区と富岡工場のある群馬県富岡市に寄付を実施するなど、様々な活動を通じた社会貢献活動を行っています。

今後も、豊かな社会の発展に貢献する活動を、継続して実施してまいります。



▲ネーミングライツパートナー締結式の様子
榎本富岡市長(右)とヨコオ徳間社長



▲陸上競技場への掲出イメージ

◆施設概要

施設愛称(4月1日から)	住所	年間延べ利用者数
Yokowo富岡市民体育館	群馬県富岡市上黒岩1377-1	72,000人 (内ジム施設利用16,000人)
Yokowo富岡市民陸上競技場		30,000人
Yokowo富岡市民球場		21,000人

ヨコオHP拡充のお知らせ

2020年12月に、「IoT用アンテナ製品」の専用サイトを立ち上げました。
長年自動車向けアンテナを開発・販売してきた経験を活かし、あらゆるモノがインターネットに接続されるIoTや高速大容量の特徴を持つ5Gなども含めた様々な通信に対して、より高性能、高機能のアンテナをさらなる市場に提供してまいります。

◆IoT用アンテナ製品サイト
<https://www.yokowo-antenna.jp/>



ドローンへの応用

自立飛行・安全向上のための位置補正などに利用されています。



自動販売機の決済

電子マネー・決済・在庫管理の連携などに利用されています。

技術力

車載アンテナカード仕様の開発

1996年よりアンテナ専用チップの開発に着手し、これにより通信機能の高度化や品質・コストの最適化を実現してきました。最新の技術力と豊富な経験を活かし、お客様のニーズに応じたアンテナの開発に取り組んでいます。



IRニューズメール配信サービスを開始しました

この度、投資家の皆様を対象としたIRニューズメール配信サービスを開始しました。決算発表やニュースリリースなどの当社IR情報について、ご登録いただいた皆様に電子メールでお知らせするサービスとなっております。

当社HPから簡単に登録できますので、お気軽にご登録ください！

◆IRニューズメール配信サービス
<https://www.yokowo.co.jp/ir/magazine/>



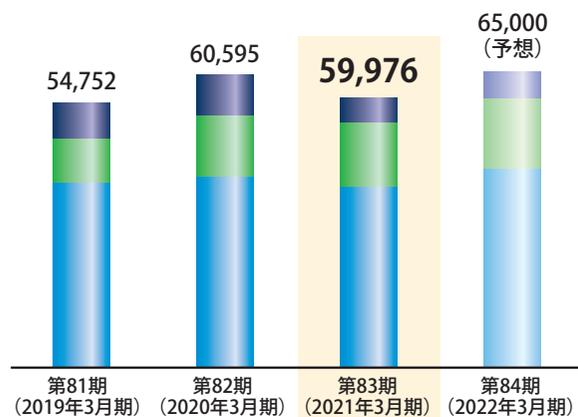
The screenshot shows the IR newsletter registration page on the Yokowo website. The page title is "IRニューズメール配信" (IR Newsletter Distribution). It includes a navigation menu with "IR情報" (IR Information) selected. The main content area contains a registration form with fields for "IRニューズメール配信登録" (IR Newsletter Distribution Registration) and "IRニューズメール配信停止" (IR Newsletter Distribution Stop). Below the form, there is a note: "メール配信をご希望の方は、こちらからメールアドレスをご登録ください。" (If you wish to receive email distribution, please register your email address from here). To the right, there is a sidebar with a list of IR information items: "トップメッセージ", "財務情報", "IR資料室", "株式情報", "IRカレンダー", "個人投資家の皆様へ", "IRニューズメール配信" (selected), and "電子公告". At the bottom, there is a "注意事項" (Important Notice) section with several bullet points regarding the service's terms and conditions.

業績・株価推移

売上高

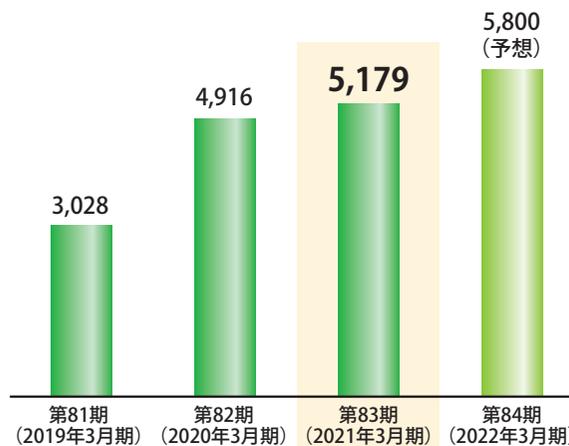
(単位: 百万円)

■ 無線通信機器 ■ 回路検査用コネクタ ■ 車載通信機器



営業利益

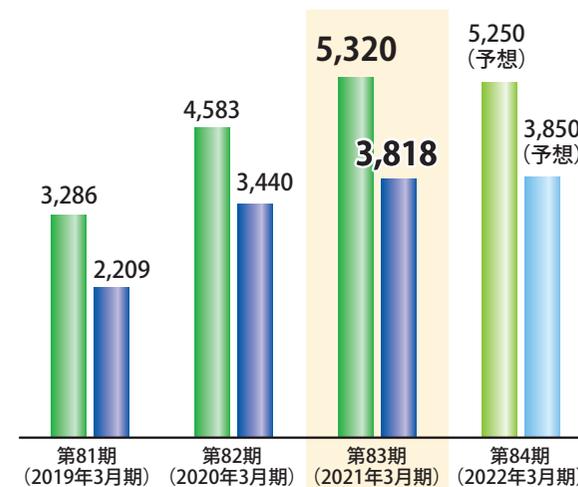
(単位: 百万円)



経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益

(単位: 百万円)

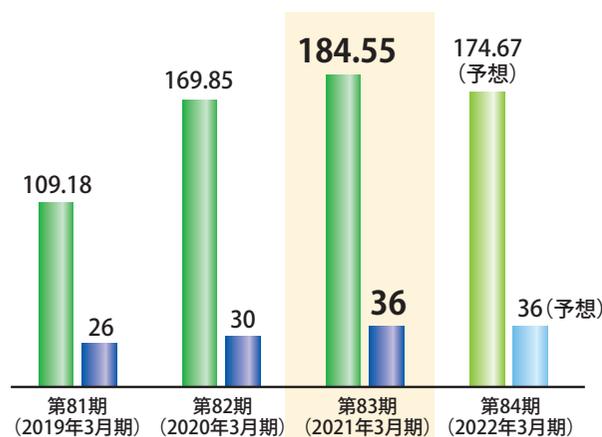
■ 経常利益 ■ 親会社株主に帰属する当期純利益



1株当たり当期純利益／配当金

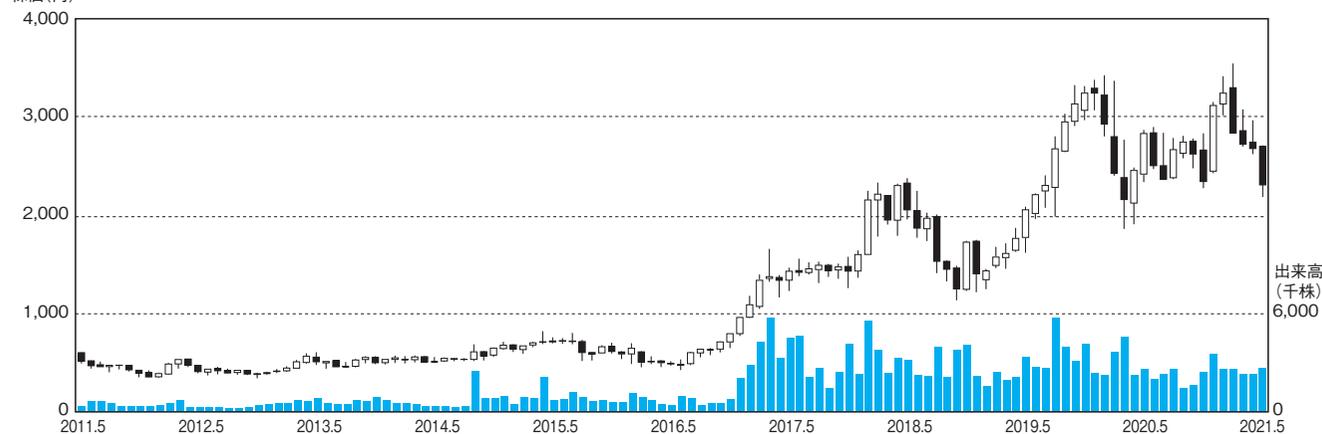
(単位: 円)

■ 1株当たり当期純利益 ■ 配当金



株価の推移

株価(円)

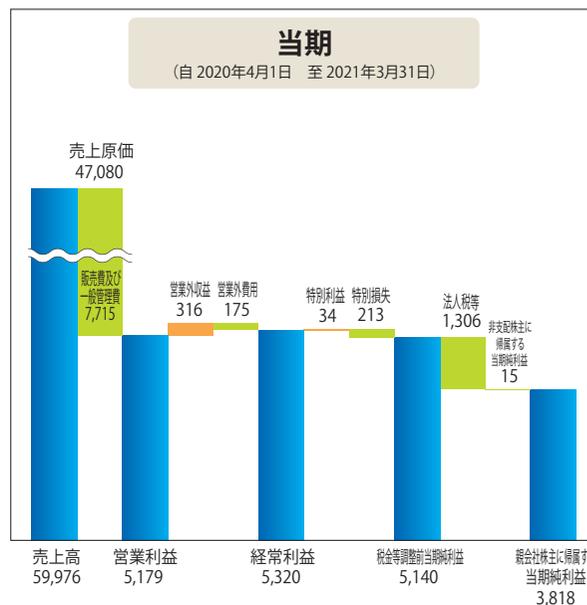
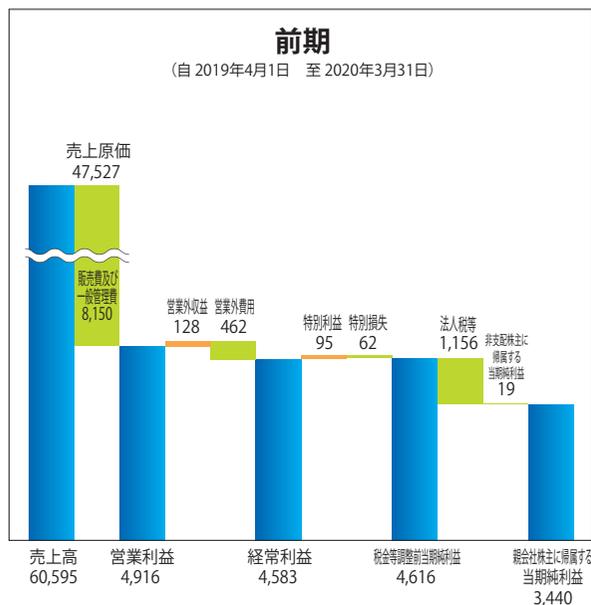


連結財務諸表(要旨)

会社の概要 (2021年3月31日現在)

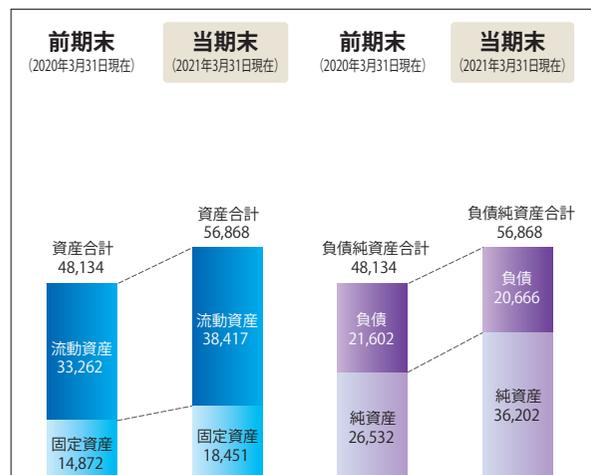
損益計算書より

(単位:百万円)



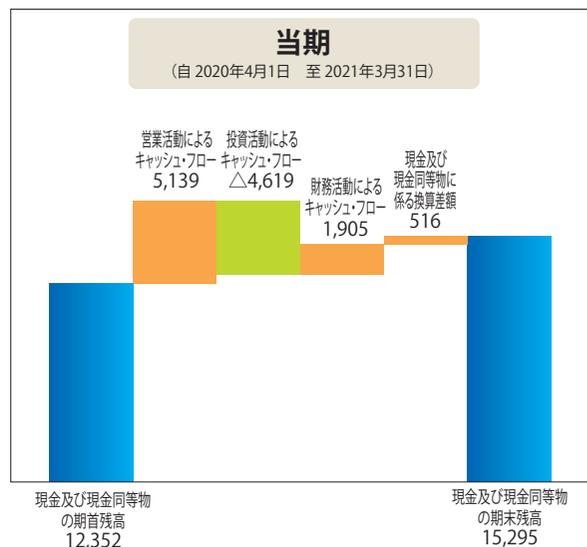
貸借対照表より

(単位:百万円)



キャッシュ・フロー計算書より

(単位:百万円)



商号 株式会社ヨコオ
 本社所在地 〒114-8515 東京都北区滝野川七丁目5番11号
 電話: 03-3916-3111
 創立 1922(大正11)年9月1日
 設立 1951(昭和26)年6月14日
 資本金 63億8,772万円
 従業員数 単体 906名(前期末比 67名増)
 連結 8,428名(前期末比 115名減)

株式の状況 (2021年3月31日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株
 発行済株式の総数 22,579,878株
 (自己株式 538,426株を含む)
 株主数 6,653名

大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社日本カストディ銀行	4,397	19.9
日本スタートラスト信託銀行株式会社	2,100	9.5
株式会社群馬銀行	990	4.4
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	990	4.4
ヨコオ取引先持株会	756	3.4
三菱UFJ信託銀行株式会社	595	2.7
第一生命保険株式会社	450	2.0
株式会社三菱UFJ銀行	446	2.0
株式会社りそな銀行	445	2.0
ヨコオ自社株投資会	437	1.9

※当社は自己株式を538千株保有していますが、上記の大株主からは除外しています。
 ※持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
 ※持株比率は自己株式を除いて算出し、小数点第2位以下を切り捨てて表示しています。

株式に関するお手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none">・ 郵送物等の発送と返戻に関するご照会・ 支払期間経過後の配当金に関するご照会・ 株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel:0120-232-711 (通話料無料) 【書類郵送先】〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 宛
<ul style="list-style-type: none">・ 上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

2. 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none">・ 特別口座から一般口座への振替請求・ 単元未満株式の買取・買増請求・ 住所・氏名のご変更・ 特別口座の残高照会・ 配当金の受領方法の指定*	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel:0120-232-711 (通話料無料) 【書類郵送先】〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 宛
<ul style="list-style-type: none">・ 郵送物等の発送と返戻に関するご照会・ 支払期間経過後の配当金に関するご照会・ 株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>【手続き用紙のご請求方法】 インターネットからダウンロードください。 https://www.tr.mufg.jp/daikou/</p></div>

*特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はご選択いただけません。

株式会社 **ヨコオ**

株主名簿管理人
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話：0120-232-711 (通話料無料)

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

